

令和6年第2回美祢市議会定例会【所信表明】

令和6年第2回美祢市議会定例会に臨むに当たり、議案の説明に先立ち、今後4年間の市政運営に取り組む所信を申し上げ、議員各位並びに市民の皆様の深い御理解と格別の御協力を賜りたいと存じます。

私は、去る4月21日に美祢市議会議員一般選挙と同時に執行された市長選挙において、市民の皆様から多くの御支援と温かい御厚情を賜り、2期目の市政運営を担わせていただくこととなりました。再び、本市の未来の舵取り役を担わせていただきますことに対し、改めて、その職責の重大さに身の引き締まる思いであります。

議会と執行部は、車の両輪の関係に例えられますが、美祢市を良くしたいという気持ちは、議員の皆様も私も同じであります。私同様に、市民の負託を受けられた議員の皆様と、この議場において、市政発展に向けた議論を深めることにより、信頼される市政、活力あふれる美祢市、そして、美祢市が一番と市民が実感できる「幸せを感じる美祢市」の実現を目指してまいりたいと考えております。

令和2年度からの1期目は、新型コロナウイルス感染症と昨年6月末からの大雨災害への対応に、多くの時間を費やした4年間でありました。

全国に初めて発出された緊急事態宣言のもと、市民の皆様の御理解と御協力を賜りながら、また医療従事者をはじめ、介護や福祉、教育、保育、公共交通等のインフラを支えていただいたエッセンシャルワーカーの皆様の御支援、御協力をいただき、私は、市民の命、健康、そして生活をどのように守るかを常に考え、行動してまいりました。刻々と変わるコロナ禍において、次々と判断を下さなければなりませんでしたが、ワクチン提供体制の確立や、市民への経済的な支援等に全力で取り組んでまいりました。多くの市民の皆様に、御理解と御協力をいただきましたことを改めて感謝申し上げます。

また、昨年の大雨災害では、多くの家屋や施設が被災したところであり、JR美祢線においては、未だ復旧の先行きが見えておりません。災害発生当初から、市職員には、まずは市民の状況を把握するよう指示し、給水活動や災害ごみの処理等、復旧対応につきまして、国・県などの関係機関や各種団体、消防団員の皆様、そして、多くのボランティアの皆様の御協力をいただき、被災さ

れた方が1日も早く日常生活を取り戻すことができるよう、全力で取り組んだところであります。

一方で、この間も歯止めのかからない人口減少に正面から向き合い、庁内に少子化対策プロジェクトチームを立ち上げ、令和4年度からは、一人5万円の出産祝金や小中学校入学祝金の支給を開始するなど、新たな子育て支援策も実施したところであります。

このように、未曾有の事態に対して慌てることなく、行動力と的確な判断、行政経験を生かした人的ネットワークにより取り組んだ4年間の活動によって、市民の皆様にご支持をいただけたものと考えております。

さて、2期目の任期も、既に1か月半が経過いたしました。この間、私は、国や県などの関係機関をはじめ、事業者、地域を訪問し、発展基盤を活かした美祢市の未来を拓くための行動を開始したところであります。

それでは、これからの市政運営に当たっての基本的な考え方について申し上げます。

本市は、3億5000万年前からの地球と生命のドラマを感じ取ることができる地質資源や鉱物資源が豊かな大地の上に成り立っています。その豊かな大地は、秋芳梨や美東ごぼう、厚保くりなどの特産品を生み、また秋吉台、秋芳洞といった他に類を見ない観光資源を形成し、私たちの生活を支え、豊かにしてきた歴史があります。私は、この美祢市は、世界に誇れるすばらしいふるさとであると常々思っております。

しかしながら、全国的に人口が東京圏に一極集中し、地方では、若者が進学や就職等を機に転出したまま戻らず、日本社会全体で人口減少、少子高齢化が急激に進み、本市では、その状況がさらに加速化しております。本市の高齢化率は45%を上回り、合計特殊出生率も上昇しない現状ではありますが、本市が地方自治体として安定し、活力と活気にあふれる市として発展していくために、私に今求められているのは、総合的な人口減少対策、特に少子化対策であり、国・県を含めた総力戦の取組が必要であります。

とりわけ、本市においては若年女性人口の減少は深刻な問題であり、更なる取組、特に、その世代をターゲットとした人口定住対策を通じて、出生数を安定させなければなりません。なお、こうした取組は、個人の経験や勘に基づくものではなく、データに裏づけられた根拠のあるものでなければなりません。

折しも、今年度は、令和2年度からの10年間を計画年度とする第二次美祢

市総合計画の後期基本計画の策定年度であります。この5年間の社会経済活動の流れや変革を踏まえつつ、本市が誇る観光産業と農林業の再興、高齢者が健康で安心して暮らすことのできる環境づくり、女性の働く場の創出と所得向上、子育て支援の取組をさらに一步前に進めてまいります。本市の潜在的な魅力を伸ばし、本市に暮らすことの価値や意味を伝えていけるよう、令和7年度からの5年間を見据えた後期基本計画を策定してまいります。

そして、総合計画の実現に向け、私は、市民の皆様にお約束した4つの取組を押し進めてまいります。

一つ目は、「安心・安全」への取組であります。

昨年の大雨災害をはじめとして、頻発化、激甚化する自然災害に対して、本市だけで対応することは非常に困難でありますことから、国・県等との関係機関との連携を密にし、迅速な災害復旧や防災機能の強化が重要となります。

昨年度被災した河川、道路については、今年度に繰り越して実施する復旧工事が続いている状況であります。市民の皆様の安心・安全を確保するため、早期の工事完了を目指してまいります。併せて、河川浚渫を計画的、また、拡大して実施するとともに、内水氾濫防止については、専門家の知見を活用しながら、新たな対策を講じてまいります。

現在、運休が続いておりますJR美祢線については、先月開催されたJR美祢線利用促進協議会総会において、JR西日本から、鉄道の復旧について、JR西日本単独での復旧は困難であるとともに、仮に復旧しても、単独での持続的な運行は困難との発言があり、美祢線の持続可能性及び利便性向上に関して議論を行う新たな部会の設置が求められました。被災後1年が経過し、代行バスを利用される学生の皆様に御不便をおかけしている状況等も考慮し、JR西日本からの提案に対し、県及び近隣市と協議、調整してまいります。

また、住み慣れた地域で、高齢者が安心して暮らすことができる医療や介護の提供体制の充実に、引き続き取り組んでまいります。

本市における医療の要である市立2病院は、本年3月に策定した「美祢市病院経営強化プラン」に基づき、経営の強化を図るとともに、山口県立大学との連携の下、実施しております「みね健幸百寿プロジェクト事業」につきましても、市民が主体的に「健康寿命の延伸」に取り組む地域の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。このプロジェクトでは、健康に対する市民の行動変容を促す取組を行っておりますが、市民の皆様が、住み慣れた地域で生きがい

を感じ、健康でアクティブな生活を送ることができるよう、科学的根拠に基づいた健康施策を展開してまいります。

さらに、80歳までに約3人に1人が発症すると言われております帯状疱疹については、新たに接種費用の助成制度を創設し、ワクチン接種を支援することにより、市民自らが発症予防、重症化予防に繋げていただくことを期待するところであります。

加えて、70歳以上の方が、市内を運行するバスを1乗車100円で利用できる外出支援事業を引き続き実施し、健康づくりや生きがいづくりの支援を行ってまいります。

二つ目は、「元気づくり」への取組であります。

元気な産業は、地域活力の源であります。本市には、地域発展の推進力となる観光資源のほか、中国縦貫自動車道の2つのインターチェンジと1つのジャンクションを有するなど、優れた道路アクセス環境があります。また、これら優位な情報を、デジタルツールを活用しながら幅広く発信していくことが重要と考え、令和3年度にデジタル推進部を新たに設置し、情報発信に努めているところであります。

本市の魅力を積極的に発信するとともに、トップセールスによる企業誘致に努め、現在、未利用となっている秋吉台上ホテル跡地については、みねDMOと連携し、宿泊施設として活用していただけるよう、事業者の誘致に鋭意取り組んでまいります。

また、中山間地域にある本市において、農林業は基幹産業であり、人々の生活と深く関わっておりますが、従事者の高齢化や減少に現在直面しており、さらに、近年の燃料価格や資機材費等の高騰は、生産意欲の減退につながっております。こうしたことから、新規就農者等への支援を継続して行うほか、厳しい経営環境に対する新たな助成を行うなど、経営継続に向けた対応策を打ち出していきたいと考えております。

市の面積の約7割を占める森林は、近年では、木材としての利用のみならず、森林資源の多面的機能が注目されております。森林資源の保全・活用を推進するため、森林環境譲与税を活用し、豊かな森林の再生と、林業の収益力向上に取り組んでまいります。

商業やサービス業においては、市民消費額の相当割合が市外に流出しており、大きな問題点と認識しております。また、地域経済を活性化させるためには、

地域内消費・生産を高める「循環型経済」に変えていく必要があるとも考えておりますので、商工会等関係団体との連携を図り、「地域でお金が回る」仕組みづくりに努めてまいります。

次に、昨年末に日本ジオパークに再認定されました、Mine 秋吉台ジオパークについてであります。Mine 秋吉台ジオパークは、ユネスコ世界ジオパークの認定を目指すこととしており、現在は、国内推薦を受けるための活動を進めているところであります。

先ほど申し上げましたが、本市には、世界に誇れる地質資源があり、大地が育んだ素晴らしい文化があります。ジオパークの理念である保全、教育、地域振興に基づき、行政、市民が一体となった活動を進めることにより、世界認定という結果を得たいと思っております。この小さな市の魅力を世界中の人に知ってもらい、世界に認められたという思いを市民と共有し、ふるさと美祢市への誇りと自信、愛着をさらに認識していただけるよう、鋭意取り組んでまいります。

三つ目は、「次世代支援」への取組であります。

厚生労働省が今月5日に公表したデータによると、全国の年間出生数は8年連続で減少し、過去最少を更新しており、本市においても、非常に厳しい状況に直面しております。出生数の減少は、経済的な不安定さ、仕事と子育ての両立の難しさなど、様々な要因が複雑に絡み合っており、少子化対策は、自治体単独ではなく、国全体で取り組むべき問題とも言われております。

そうは言いましても、ただ手をこまねいているだけでは何も変わりません。むしろ本市にとっては、状況はますます悪くなることでしょう。私は、次世代支援のため、市としての政策を総動員し、若い世代が結婚、出産、そして子育てがしやすく、住み続けたいくなるまちづくりに全力で取り組んでまいり所存であります。その際には、今までの事業でブラッシュアップできるところはどこなのか、不足している点は何なのか、外部の専門家招聘の下、指導・助言を受けつつ、加えて、市民の皆様の御協力、御理解をいただきながら実行してまいります。

また、現在計画中的新図書館については、子育てや学びの活動、健康づくりなどの機能が複合化した施設として、検討を重ねております。「歴史（むかし）をたずね、現在（いま）を知り、未来（あした）を育む、わたしたちの『ひろば』」のコンセプトの下、子どもから子育て世代はもとより、高齢者までのあ

らゆる世代の方に、幅広く活用していただける施設の整備を行ってまいります。

そして、1期目に開始いたしました、子どもたちの好奇心を引き出し、新しいことに挑戦する力を育て、学びのスキルアップを目指す公設塾 mineto の取組は、大変高い評価を得ております。今後は、対象者を高校生まで拡大し、自ら地域社会を変えることができ、美祢市に残り続けたい、関わり続けたいという人材の育成を行ってまいります。

なお、これらの取組については、本定例会に提出いたします補正予算において、「みらいへの芽を育む、次世代への支援」として御提案しているところであります。

四つ目は、「ひとつになれる市政」への取組であります。

本市には2万1千人の市民が暮らしておられます。そのお一人おひとりが輝き、互いに尊敬し、認め、支え合う、「誰一人取り残さない」社会の構築が大切であると考えております。

昨年11月に、本市の行政サービス拠点として、市役所本庁舎を整備しました。今年度は、美東地域、秋芳地域のまちづくりの拠点施設となるべく、それぞれの総合支所の複合施設化を行います。美東、秋芳の両地域の皆様には大変お待たせいたしました。総合支所、公民館、図書館等の機能を備えた世代を超えて、地域住民の方が集い、活動を展開することができる、新たな施設としたいと考えております。

一方で、自治体経営の根幹をなす財政状況は、地域経済の縮小による税収の落ち込みや老朽化した公共施設の対策経費等の増加により、今後厳しくなることが見込まれます。

このことから、私が先頭に立って、メリハリのある自治体経営を行ってまいります。まずは、1期目に引き続いて「市長報酬の2割削減」を行います。併せて、DX化により、行政のサービス向上と事務の効率化を推進するとともに、適正な職員の定員管理や、公共施設・公有資産の活用と処分など、時代に合った行財政運営を職員一丸となり、進めてまいります。

しかしながら、財政面のみ重視するあまり、歳出を削減するだけでは、市民サービスの低下を招きかねません。このため、新たな財源の確保が非常に重要であると考えております。国や県からの補助金、交付金を的確に活用した事業構築はもとより、特産品の育成や農商工連携を通して、ふるさと納税、企業版ふるさと納税の増収を図るほか、昨年からは開始いたしましたデジタル住民票を

活用した財源の確保に努めてまいります。

さらには、市民と行政がそれぞれの役割を自覚し、対等な立場で臨む「協働」のまちづくりが大切であると考えております。市民の皆様のお知恵とお力をお借りし、市民と共に行動するまちづくりの実現に向け、取り組んでまいります。

「一を以て之を貫く」これは、私の座右の銘であります。この言葉が示すように、思いやりの心で、常に「市民に寄り添う」という基本姿勢を崩すことなく、市民との対話を大切にし、皆様から頂戴した御意見を真摯に受け止め、本市が抱える課題の克服と、新たなまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

思いやりあふれる、また、魅力ある美祢市の実現に向け、市民の皆様とともに、未来を切り拓いてまいります。

以上が、市政を預からせていただくに当たりましての、私の2期目の基本的な考えであります。

世界に誇れるふるさと美祢市のため、誠心誠意、全力で市長の職を全うしてまいる所存であります。

議員各位並びに市民の皆様におかれましては、今後の市政運営につきまして、何卒御理解、御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和6年6月18日

美祢市長 篠田 洋司